

水害に関するマップの公開

姫路市のホームページでは、洪水ハザードマップや高潮ハザードマップ、津波ハザードマップのほか、下図に示す水害に関する様々なマップを公開しています。これらのマップをハザードマップと共に活用し、さらにはどのような状況が予想されるのか、具体的に考えて見ましょう。



浸水イメージ写真の例

【姫路城の場合】



普段のようす



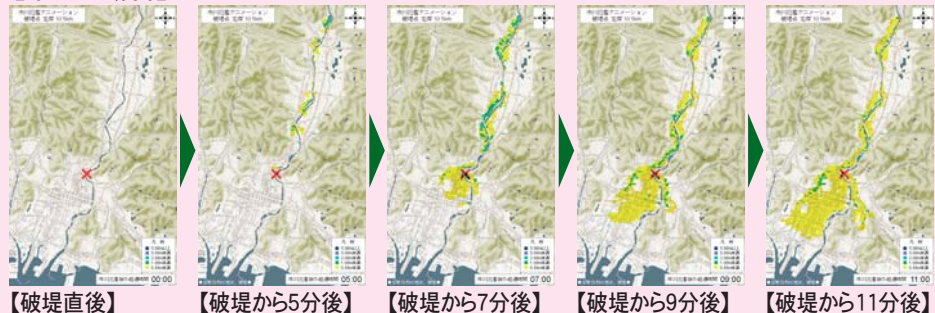
浸水イメージ 最大浸水深 50cm



水害に関する様々なマップの例

アニメーションの例

【市川の場合】



【破堤直後】 【破堤から5分後】 【破堤から7分後】 【破堤から9分後】 【破堤から11分後】

これらのマップを閲覧したい場合は、姫路市ホームページの「防災インフォメーション」から「ハザードマップ」にアクセスしてください。

パソコン <http://www.city.himeji.lg.jp/>

気象情報を確認できるメディア

姫路市の雨量・水位情報

地域ごとの雨量を知りたいときは、姫路市ホームページの「防災インフォメーション」から「気象情報」欄の「雨量情報」「水位情報」にアクセスしてください。

パソコン <http://www.city.himeji.lg.jp/>



災害用伝言ダイヤル

171 をダイヤルし、ガイダンスにしたがって、録音・再生を行ってください。30秒間メッセージを録音できます。

兵庫県防災気象情報システム

各地域における様々な災害情報を見ることができます。

パソコン <http://hyogo.bosai.info/>

携帯電話 QRコード



<http://hyogo.bosai.info/mobile/>



ラジオ FM GENKI FM79.3MHz

災害などの緊急時は、姫路市消防局と連携しながら、避難情報を放送します。



ケーブルテレビ WINK

アナログ9CH デジタル091CH
災害などの緊急時は、避難情報をテロップで放送します。

お天気チャンネル
アナログ32CH デジタル093CH
WINK

ひめじ防災メール便

登録すると姫路市内における、地震の震度情報、災害時の避難勧告等のお知らせ、定期的な防災に関する情報が発信されます。

パソコン http://www.city.himeji.lg.jp/bousai/mail_policy.php



水害から身を守る!



～ハザードマップの利用～

洪水・津波・高潮に関する知識を身につけて、万に備えましょう。

1 ハザードマップの使い方



ハザードマップとは…

災害情報や避難所など防災に関係のある情報を掲載したマップです。事前に学習することで、災害時の初動体勢を早めることができます。

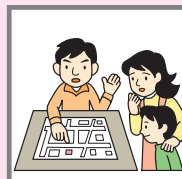


ハザードマップを活用すれば、災害にそなえることができるんだね。



ハザードマップの使い方

ハザードマップを利用して、災害を想定してみましょう。あなたの生活行動範囲にはどのような危険がありますか。



手順 1 自分の家を確認してください

ハザードマップには、土砂災害また水害について記号別、色別に表示しています。自分の家を探して、どのような土砂災害あるいは水害の危険があるのかを確認してください。



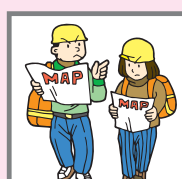
手順 2 避難所を確認してください

日頃からマップで自分の家から近い避難所を確認しておきましょう。避難所は小学校、中学校などの学校と市の公民館などがあります。



手順 3 各地域で集い、自然災害や避難について話し合ってください

地域で防災に関する学習会や意見交換の場を設け、災害時に危険となる場所を考えてみましょう。地域で話し合うことにより、地域特有の危険な場所が見えてきます。



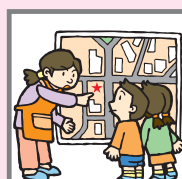
手順 4 避難ルートを考えてみてください

実際に避難所まで歩いてみて、安全で避難しやすい経路を確認しておきましょう。夜道でも安全に避難できるように目印のある道路を選びましょう。



手順 5 メディアを使って気象情報を見てください

台風や大雨のときには、テレビやラジオなどの気象情報に注意しましょう。また、表紙に掲載してある各種メディアからも気象情報の確認ができますので、いざという時にそれらのサイトから情報を得られるように使い慣れておきましょう。



手順 6 ハザードマップを貼ってください

このマップを、普段から目に付く所に貼っておき、いざという時には自主防災活動をスムーズに行えるようにしましょう。



2 自主防災活動

自主防災活動とは…

「自らの生命、自らのまちは自ら守る!」という自助・共助の精神を持ち、地域で防災力を高め、災害時に自発的に行動することを自主防災活動と言います。

～ちょっとした心がけでできる自主防災活動の例～
 日ごろから災害に備えて訓練を行い、消火器の使用方法など、防災活動に必要な知識や技術を習得しましょう。

ハザードマップを用いた自主防災活動

防災についての正しい知識を身につけるために、研修会や講習会に参加しましょう。

ハザードマップを利用して、地域で起こりうる災害を想定し、みんなで危険箇所や避難所について意見を交わしましょう。

情報連絡・初期消火・避難誘導・救出救護・給食給水などの役割分担を事前に決めておきましょう。



2006年11月に行った「姫路市洪水ハザードマップに関するワークショップ」の例

役割分担

●初期消火班

火災の警戒や初期消火活動を行います。

●避難誘導班

避難経路、避難所の安全確認のほか、人員点呼、避難誘導を行います。

●給食給水班

食料や水などを避難者に配分します。

●救出救護班

負傷者の救出や応急救護を行います。

●情報連絡班

情報の収集伝達、避難命令の伝達のほか、被害状況を防災機関へ通報します。

◎その他、防災に関わることにあなたが行うことすべてのことが自主防災活動です。



3 災害に関する豆知識

洪水 洪水の発生メカニズム

- 大雨や雪解けによって、川の水の量が増え、水かさが増え始めます。
- 堤防いっぱいまで水が増えると、堤防に水の大きな圧力がかかります。
- やがて堤防が崩れ、勢いよく水が流れ出し、家に襲いかかります。

こんなところが危険

地下道

地下道は一度浸水始めると水が引きにくく、水没する危険もあるので避難経路に適しません。

側溝

避難時は側溝などいつもは気づかない道の凹凸が歩行の妨げになります。

津波 地震の際は、津波に十分注意し、危険を感じたら、早急に高台あるいは高層建物へ避難しましょう。

津波の発生メカニズム

- 海洋プレートの移動により大陸の先端が引きずりにまわれ歪みが生じます。
- 歪みが限界に達すると、元に戻るためにはね返り、海水を押し上げます。
- 持ち上げられた海水は四方八方へ広がります。

入り江は危険度大!

水深が浅いと津波の速度は遅くなり、後ろから追いついた津波の影響で急激に高くなります。特に入り江が狭いV字型の湾では、水の逃げ場が無いので、津波の高さが急激に高くなります。

高潮 高潮の発生メカニズム

台風の接近に伴う低気圧や沖から海岸へ吹き寄せる風の影響により海面が異常に高くなる現象です。

台風の経路によって異なる高潮発生の危険度

①姫路市の西側を台風が通過する場合
 風向きが進行方向と同じため、風が加速され、高潮の危険が②より高くなる。

②姫路市の東側を台風が通過する場合
 風向きが進行方向と逆のため、風が相殺され、高潮の危険が①より低くなる。